

「Fujita 脳神経外科友の会に心を寄せて」 2020/09/14

加藤先生のコットーは、「我々の会は、患者様とは徹底的に最後までお付き合いして、看護、医療を施していく」に集約されると思いますが、このような先生とその心意気に賛同し、同じ熱意を持って働いておられる方たちが大勢おられることに感動を覚えます。

患者は、どの先生に診て頂くかをいつも選べるわけではありません。脳内出血や脳梗塞などは突発的に生じ、緊急搬送となればどの病院に行くかは救急隊員まかせとなる場合が少なくありません。そのような医療現場での出会いから、先生と患者としてだけではなく、温かい人と人との関係へと発展していける様子は、加藤先生のお人柄を象徴しているのだと思います。

今から 2000 年ほど前に、イエスキリストは「受けるより与える方が幸福である」と語られました。人に寄り添い、考えや感情を共にし、その人を助けるために自分の時間、才能、エネルギーを与え、最後には多くの人のために自分の命をも与え、生涯を通じて与える精神を全うしました。

最近の多くの研究は、与えることと幸福には密接な関係があることを示しています。スティーブ N G ポストは「利他的な態度で他の人に助けを差し伸べると、概して寿命が伸び、幸福感が増し、身体的にも精神的にも健康になり、気が滅入ることも少なくなる」と述べています。又ある研究によると、与えることは「喜び、人間関係、信頼に関係する脳の部位を活性化し、温情効果を生み出し」ます。更に 2008 年にカナダと米国で行われた調査によると、「人はお金を自分自身のために使うより他の人のために使う方が幸福になれる」という結果が出ました。

写真やテレビや冊子で拝見する加藤先生は、いつも明るく思いやりに満ち、他の人のことを自分自身のように考える深い感情移入のできる方だと思います。確かに与える精神に富んでおられます。それ故、幸福なのです。そしてその精神は、他の人に伝わっていき、脳神経外科友の会に脈々と流れているのだと思います。会員様の多くは、辛い経験をされた方々だと思いますが、先生と友の会との出会いにより、勇気と希望を得られたことでしょう。

今後も、加藤先生のご健康とご活躍を心より願っております。又 Fujita 脳神経外科友の会様が、多くの人たちの幸福に寄与し、恵となっていられることを祈念いたします。

最近共感を覚えた言葉を記します。

『人は他人のために存在する。何よりもまず、その人の笑顔や喜びがそのまま自分の幸せである人たちのために。そして共感という絆で結ばれている無数にいる見知らぬ人達のために』 アインシュタイン

伊達順一